
そこは真剣な世界だった

貧弱戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そこは真剣な世界だった

【Nコード】

N9918Y

【作者名】

貧弱戦士

【あらすじ】

とりあえずお気楽ライフを送っていた主人公『神川 獣代』。いつもと同じ、悪友とツルんでいた毎日だった、ある日彼に人生の幕を閉じる出来事があった。彼は死に、彼のもう一つの物語は始まった

ブローグ

「ああ、暇だ」

開口一番はコレだが、俺は『神川 獣代』だ
まあよろしく？

今年で高校二年生だ。まだ学生だぞ？

「誰か俺に挑む、若人達はいねえーかなー」

学校の机でうつ伏せになり、現在の願いを言う
だって！ 勉強とかつまないわ！！ もっとハードをしたいの
よ！！

「何言ってるんだい。『餓王』や『野生の原点』で言われている君が、
そんな無理な願いを言っちゃ駄目でしょ」

「うつせえ。そのあだ名はお前しか言ってるねえだろ？ だが、何故
か女子からは『猿人』と呼ばれるが……そうか！！ 嫌よ嫌よも好
きのうちか！！??？」

「たんに嫌われているだけ（笑）」

「ウッセエエエエエエ！！！！」

『ドガーーーーーーン！！！！』

目の前に机全体を引っ繰り返した
コノヤロー、昔からム力つく野郎だ……！！！！ 殺す！！

「僕は避けるのが専門だから、君の行動なんて昔から読めているしね」

「ア”ン!? 女川 悟ウーーーー!!! 咬むぞゴリアー!!」

「野獣……（ボソツ）」

「聞こえたぞ、サアアアトオオルウウウ!!!」

昔からの俺の幼馴染、女川 悟

眼鏡を掛けて、髪はショートだが列記とした女性だ。だが、何故か男装をしている

て、内心から説明しているんじゃないかなかった!!!??

「食らえエエエ!!! 『ワイルド野生パンチ』!!!」

黒板の前で追いつき、そこで隙を突き右腕全体を放った
だが悟は彼に避け、舌を出してまでも逃走し始めた
糞!!!

「待てやゴリアアアアア!!!」おい、神川!!! また貴様か!!!
ぎべっ!?!」

追いかけてようとしたが、国語の担任が俺を怒声で止めた
毎回毎回怒っている、。。。。な野郎だ……めんどくせえ

「神川!!! これは何だ」

「何って、おいおいていーちゃー? そこは黒板のはず……あれ!

？ 何か隣の教室と開通しているんだけど！？ どういう事だ！！」

「お前のせいだ！！ また破壊しおって……！！！！」

さつき放った『野生ワイルドパンチ』が黒板と隣のクラスとの壁を破壊していた

まさか悟、こんな事に気づいて……！！！！ この悪魔がアアアア！！！！

「罰として、今日の放課後の教室掃除はお前一人だ！！！！ わかったな！！！！」

「そ、そんなアアアアアアア！！！！ お代官様、いや仏様！！！！ それだけは……それだけは！！！！」

「罰は罰！！！！」

この糞ていーちゃー？ が！！！！ 今度お前の頭の草原、雑草の如くムシってやる！！！！

「あははははは！！ 本当に君は面白いよ！！ ぷぷ」

「デメエ、咬むぞ！！ ボリツとゴリツとニヨロツとガブツとするぞ！！！！」

「君の事、色々漏らすよ」「すみません」「よろしい」

もう外は夕日が無くなり始め、月がどんどんと上っていく時間
悟と一緒に下校し、今は横断歩道の信号が赤なので止まっている

「色々とか、お前セコイ……」

「はははははは！！！！ 誉め言葉さ。さあてと……！！！！？？ 獣代！！
アレ！！！！」

「あん……て、うおおおおおお！！！！」

悟は指を指し、それは乳母車が勝手に動き赤ちゃんが渡っている
お母さんらしき人物は他の人と話して気づかず
俺はすぐさま動いた

「あつ……ぶねエエエエエエエエ！！！！！！」

『キキーーーー！！！！』

ロケットの如く早く、すぐさま乳母車から赤ちゃんを取り出し車
から避けた

周りの人はホッとした

「!?!? 私の赤ちゃん!?!?!」

「ほら、お母ちゃんだぞ。見えるか?」

「あーうー」

お母さんも気づき、手を振っている
これで安全……

だと思った

この場の全員が

運命とはとても皮肉で、神様とはとても信用してはならないと……

『プープー！！！！』

「なっ！？ た、タンプカー！！！？ しかも四台だとオオオオオオオ！！！？」

さっきの車があなっただから、何故かタンプカーが……しかも四台ともパニックになり、走り続けている
これじゃあ、サンドイッチだ

これは頭をフル回転した。このままじゃ俺とこの赤ちゃんも死んじゃう

けど、赤ちゃんだけなら……

「悟ウウウウウ！！！！ 受け取れエエエエエエエ！！！！」

『ビュン！！！！』

「え……お、おっと！」

赤ちゃんを投げ、悟は慌てて受け取った

さあ、生きるよ？ 赤ちゃん

俺は四台のタンプカーを見つめた。運転手達はすでに降りている……けど、それでも動いている

いや、止まろうとしているが遅い

で、何で俺は冷静なんだよ……俺らいくねえな！！！！

「一台でも多く止めてやる！！！！ これ以上被害は出させないぜ！

「!! 食らえエエエエエ!!!!」

「獣代————!!??」

右腕を最大限まで引き、タンプカーが来るのを待った
けど……時間は何秒よりも早かった

「『ワイルド野生パンチ』!!!!!!」

『ド————ン————!!!!』

これで、俺の物語終わり!!

「ホンマ、すみません!!!!」

「はい？」

だが、それには外伝というのがあった

「01」 俺の本当の世界にゴ―！！

さてと、今さっき死んだ俺は何しているんだろ？

いや起き上がったら変な人が土下座しているし、俺は一体何やつ
たんだ

もしか、カツアゲ！？ いやいや、記憶はちゃんと存在してんだ。
ありえねえ

じゃあ……ん？

よく見れば、その人の頭には金色に光わっかがあつた
そうか……やっぱ俺は死んだんだな

「あゝ、何で謝っているんだ？ 俺は死んだからか？」

「いえ、違うんや！！ これは事故というか……ホンマ、すんませ
ん！！！」

「……はい？」

顔を上げれば、男性で俺よりもイケメンな人だった
関西弁か……ギャップはいいなって、違う違う！！ 何で謝って
んだ？

「事を話してくれ」

「は、はい……そう、アレはついさっき」

語り side

そう、あれはほんの一時間前のことなんや

おっと、まずは自己紹介やな。ワイはゼウス隊第二隊長の、まぶた瞼つ
つーもんや

一応ワイの上司、まあゼウスはんの部下なんやが……まあ、それはおいおい

ワイは現当……神川はんが居た世界の事や。そこでな、何時もと
同じように現当の警備しとったんよ？

んでな？ ワイ等はいわば死神なんやけど、警備と兼ねて死人の
魂もこの天界という所に連れていくんや？ ここまではわかるやろ？

「まあ、だいたいな」

そんでなあ、まあ何とものことかに、さっきお前さんが助けた
赤ん坊……実は今日が命日やったんや

そんで、ずーっと近くで待機してはったら何とお前さんが助けた

んや

「ふんふん」

……事の重大がわからんやろうが、ワイ等にとっては重大かつ一大事なんやさかい

今日が命日なはずなのに、何で一人の人間の力で生きているや！

？ と……お前さんのせいや

「待てよ。それは運命が……こう、変わったとでも！？」

そうや

赤ん坊は助かり、お前さんが死んだ。ワイ等の読みとは全然違うや。それでちよつとお前さん……神川はんの事について色々調べてもらうたさかい

「個人情報だぞー！！」

いや、今はそれ言うたらあかんで？

んでわかった事が一つあるんや……お前さん、自分の『力』が不思議と思つた事あるんやないか？

「たしかに……異常とは思つが」

そう、それやー！！

お前さん……『生きる世界』間違いたんや

「……はい！？ 俺はあそこで普通に生きてたんだぞー！？」

たしかに、けどお前さんは間違いたんや。それも……ゼウス

はんのせいだな

「そのゼウス殺す！！！！　ゼウスもどきがアアアアアアアアアア！！！！」

まあゼウスはんは本物や

いいから話聞きたい。ワイの上司はゼウスはんなんや！！　だから、この失敗は他に知らされては困るんや

だから……　本当は天界で住むはずなんやけど、お前さんは特別に『転生』をやらせてもらう

「うおおおおおお！！！！　何処だゼウスウウウウウウウウウウ！！！！」

話聞け！！！！

いいか！！！！　今からその儀式を無理やりにさせてもらうで！！

！　お前さんの『本当の世界』や！！！！

獣代 side

転生だが知らないが、んなのに構ってられるか！！！！

「出てこいやアアアアアア！！！！　ゼウス！！！！　ぶつ殺してやるウウウウウウ！！！！」

「……　ほんな野獣やな。　んじゃまあ、アッチでも頑張りや。　『神川

獣代。ゼウスの承諾により、転生を許可する！！！」

「おわっ！？ 何だ、足元が光ったぞ！？」

足元が光だし、何やら魔方阵ぽいのが浮き出た
魔方阵は回転だし、辺りは突風や竜巻が起こりだした。俺はそ
の中心なので、大丈夫だが……

「神川はん！！ 苗字や名前はそのままや！！ 最初はブローク
ンになるやろぅが、まあそこは耐えるんやな！！ んじゃま、また
死んだら会おうさかいに！！」

「うおオオオオオオオオ！！！！？？？？」

そして風に巻き込まれ、意識が無くなった
もう何が起きているんだよ……はっ！？ これも悟の策略か！！
???

「さあ、大暴れせえや」

「おぎやアアアアアアアアアア！！！！（マジげんなゴリアアアアアアアアア！！！！）」

目を開けば、また新たな物語が始まっていた

く02く 宿敵登場!?

さてお前ら、久しぶりだな 読者

いや、こつちの世界だともう数年くらい経っているから、久しぶりなんですよ……

まあ、最初はブローケン以上だったが、もう慣れたな

……自分が悲しくなるな。慣れって、怖いな
んでだ、今は俺は幼稚園の年長組みだ。まあ、この世界の人とはとにかく凄いつつーのがわかった

この街の偉い人は、ビームを素手で撃てるつつーし、俺もワクワクだねエ

まあそんなために、一応俺の名を広げるために……

「あにき!! ぱんかってきまちた!!」

「あにき!! かたをもみましゅ!!」

「おうおう、よきにはからえだぜ!!」

絶賛年長組みを絞めて、こうなりました

もう世紀。覇者ですよ、俺は。周り舎弟だらけ、もう幼稚園ライフ遠のいたよチクシヨ

いや、入学直後の喧嘩売られたからさーちよつと、アレをしちやったわけですよ

それでそれ以来、俺は年々とこの幼稚園の番長となっていたんだぜ!

うん……俺が名乗ってじゃねえ、色んな奴がそう言っているだけ

だから、男友達はできても女友達は出来ねえんだよ

はあ、これから甘酸っぱいくない、まさに梅干だな。レモンじゃなくて……梅干の酸っぱいの如く人生送るんだろうな

「おいおまえ!!」

「はあ？ んだよって………」

超不機嫌で答え振り向いたら……そこには、可愛い女の子だ
仁王立ちしていた

まさか、これは運命……!!
なわけえなか……馬鹿らしい

「何だよ、急に呼び出すなんて」

「おまえ、。。えんのたしか……そう！ かみかわだな!!」

必死に思い出そうと頭を抱えて、人差し指で俺を指す

ひらがなのが、良い……ていかにいかに!! なんか変な方向に進む所だった

「そうだが……お前の名は」

「わたしはかわかみ ももよ!! おまえにけつとうをいどむ!!」

「……馬とかで良く使う言葉」

「それは血統!!」

「やる事する事」

「それは実行！　って、いいからけつとうしろー！ー！ー！」

漢字知ってたんだね。決闘って、幼稚園児がするもんじゃねーぞ。仕方ねえ、ここは力の差というのを思い知らしてやるか。右拳に息を吹きかけ、一気に引き……

「『野生パンチ』！！」

ドン！！！！

「?!?!」

地面に向けて放ち、まるで爆弾が起こった跡が残っていた
たく、早く強い奴に会いたいぜ……

[illegible]

急に高笑いをした

ど、どうした！？ ビビって壊れたのか！？ だが、それは違ったぞ、完全に笑っていた。苦笑いじゃなく、何かに笑って

「おもしろいぞ!! わたしもだんだんしゅんがあがってきたぞ!! さあ、けつとうだ!!」

さらに熱くさせちゃったー！ー！？？？

女の子は構え、それを一切止めない。そしてまたもニヤリを笑うやるしかねえみたいだな……。俺も自分流で構えた

そしてまるで空白の世界のように、あたりは静かとなった
最初に動いたのは……

「やっぱやめた」

「へ!？」

「おまえはまだまだおたのしみだ!! ここではやりたくないし、いつかやろう!! じゃあ」

構えを解き、疾風の如く俺から去って行った

は、はははは……おいおいおい、そりゃあねえだろ? そりゃあねえだろ?

ここまで盛り上がったねエ

俺の所だけ木枯らしが吹いた

『ブッチン!!』

そして何かがキレた……人間の理性が

「ざけんなゴラアアアアア!! 此処は戦う所だろオオオオオオオオ!!」

よ
かわかみ ももよか……いつか出会ったとき、決着を着けてやる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9918y/>

そこは真剣な世界だった

2011年12月1日22時54分発行